

こどもの発達を理解と 支援について

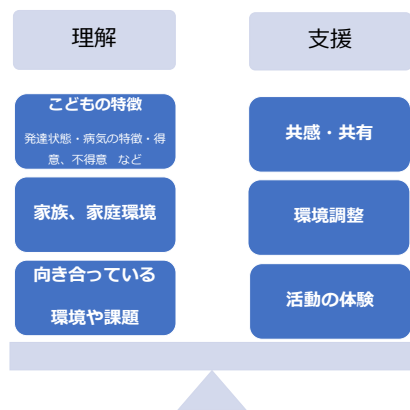
巡回支援アドバイザー
作業療法士 篠川裕子

今日の内容

1. こどもの発達を理解ということ
2. こどもの生活を支援ということ

はじめに

理解は支援の第一歩



1. こどもの発達を理解ということ

a. こどもの特徴

- 発達の状態
生活年齢と発達年齢の視点で理解する
いろいろな領域の発達状態を理解する
⇒遊び・身の回り動作・学習
運動機能・感覚機能・認知機能・心理、社会的機能
- 病気の特徴
日常生活を送るうえで気を付けることを理解する
- 得意なこと、苦手なこと
得意なこと、好きなことを見落とさないように理解する

1. こどもの発達を理解するということ

b. 家族、家庭環境

- 家族の現状を理解する
- 家族を取り巻く環境を理解する
- 家族の思いを理解する
- こどもの障害に対する家族の受容状況を理解する
「ショック期⇒否認期⇒混乱期⇒努力期⇒受容期」
「肯定と否認を繰り返す」

1. こどもの発達を理解するということ

c. 向き合っている環境や課題

- 環境の現状を理解する
所属している
物理的環境：教室や生活空間などのスペース、
使用している机や椅子、道具、時
的環境など
人的環境：家族、幼稚園や学校の先生 など
- 課題の特徴を理解する
課題となっている活動や動作の目的、必要となる機
能や能力

1. こどもの発達を理解するということ

そして

こどもが示す行動を理解するために

- その日の子どもの体調、子どもが出会った環境
や活動を把握する
- 活動に取り組む様子として、姿勢や道具などの
使用状況を観察する
- 活動場面でのこどもからの発信を観察する
どんな**場面**で：活動のどこの場面？、
誰との場面？
どのような**発信**か：表情や発言、行動など
をセットにして観察する

2. こどもの生活を支援するということ

a. 共感、共有

- こどもからの発信を待って受け取り、共有、共
感する
「どうしたの?」「なあに?」⇒「そっかあ」「そうだよな」
 - 共感、共有から説明と同意へつなげる
 - 家族の思いを共有する
- そして
- こどもからの発信がやってほしくないことで
あっても、何か理由があると考え、捉えなおす
 - こどもからの発信を活用して、得意なことにつ
なげる
 - 共有、共感の体験から、他者の相談、ヘルプを
出せる関係づくりにつなげる

2. こどもの生活を支援するということ

b. 環境調整

こどもたちは

- 姿勢を正しながら、話を聞く、宿題をするなど、同時進行が苦手
- 姿勢などをサポートすることで、できることが増える
- 環境に合わせて、能力を発揮することが苦手
- 環境に合わせようとするのが慢性的なストレスになりやすい

だから

こどもに合わせて環境を調整して、使いやすい道具を提案して、少しでも達成感を感じられるように支援する

2. こどもの生活を支援するということ

c. 活動の体験

- 活動は、意味や目的があり、様々な能力で成り立っていることを前提に計画し、提供する
- 活動に参加するこどもはそれぞれ特徴があるので、こどもの特徴にあった参加目的を確認し、提供する

振り返ってみましょう

- (集団) プログラムを運営することが目標となっていないか?
⇒活動を体験するのはこどもたちです
- みんな同じように参加させなければと思っていませんか?
⇒こどもたちの到達目標はそれぞれです
- いつも「無理しなくていいよ」ばかり言ってませんか?
⇒こどもひとりひとりが意欲的に楽しめる場面を提供できるように計画しましょう

おわりに

こどもたちへの支援には支援者の自己理解が不可欠

